（十三日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭第一第三日曜
定價（壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢）
廣告料（雜報欄行五十錢　場所指定二十錢増）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
福島縣平町田町拾六
發行所　磐城新聞社　電話四五六四番

無理な御注文
メートル法宣傳に就て

◇又大嫁ひなメートル法の宣傳が始まつたメートル法を使用するのだから得る得と從來の間尺を使用する又覺にこむ爲めからの損とは果してドチラが大かろう
◇新たに家屋を建設するゝにも別にメートル法に據れとの御達しも見ねぬ今日では一枚の疊の長さが一、八八八八米突であつたり桁の長さが三七七七米突であつたり却て不便こそすれ調法な點は一つもない。
◇米屋が米を持込んで來ても炭やが炭俵を擔ぎ込んでもグラム秤がなくていつぞや檢査をして見ろとの御達しなど實地に試むる方法など御座なく候だ、洋服は便利だから猫も杓子も着る洋服を着る以上は椅子にも掛けて見たくなる坐り苦いの安坐も組んで見るアメがチャラメルになりうしいちゝがミルクになり何でも彼でも外國のものづくめたそうした中に置きながら大和魂だけを昔のまゝ三千年の豊葦原の千穂秋の瑞穂國ゝまゝにして置けといふのはチト無理かと思ふ
◇御國を思ふ忠良の民がダンダン減つて妙な蟲ばかりが矢鱈に多くなることじや如何にも心細い
◇これといふのも昔のやうに四書五經などはトント敎えもせず習ふものもなせすの處へ筆筒の曳手みたいな横文字ばかりを精出して詰込むから日の本の神ながらの道などは逐膽の内側にヒり付いて居るせいである
◇我々時代には四書や五經は一々戴いて「子曰は」キチンと御坐りをして讀んだものぢが此頃では寝ころべつて讀むには都合が惡いとワザワザ片手でチョイとさゝげるのに都合のよい本精出して造る
◇それに少年少女は…
を宣傳してはフランス邊の賣女等が情夫などに送る手紙の封筒に切手を横に貼つたり、斜めに貼つたり、妙な甘つたるい意味を云はせる手管を麗々しく書きたてゝは讀ませる算段に心を砕いておる如何にも妙な世の中になつたものじや
◇それにしても昔の本もめゝ大和魂が追々と變影し文化的大和魂二十世紀式大和魂扨は昭和風の大和魂など幾種も出來た揚げ句はロシア式大和魂などと食パンのやうな魂がドシドシと製作され無暗矢鱈と其邊に吹き飛ばされには全く閉口する昔は和魂漢才と申して師匠からもよく聽かされたが今の食パン式の魂は徹頭徹尾禁物じやがこれもそれメートルやれキログラムと紅毛國のもののみを御奨勵になる御上の治下には又以て致し方のないことかとツクヅク月代を剃りだして本出髷をピンと云はせば昔が懐かしくなる（椋十）

明日の吉凶
舊暦二月廿四日　新暦四月十四日

▲一白　天の利はあれど人の和に欠くる所あり注意▲二黒　暗雲は自然と身邊を去りて快晴となるべし▲三碧　無理に發展せんとするは即て破敗すべし▲四綠　老廢衰微の風に捕ばれぬ樣に自衛すべき日▲五黄　小翔ひに喜びを求めず末の大漁を心掛くべし▲六白　氣ばかり大きくなりて常務捗らざる日▲七赤　他人相手にこれまで滯りし事も皆解決すべし▲八白　大に活動せらるゝ自由の天地に出でちる日▲九紫　外にあり身を高ふすれば內になや増す

講談
闇に閃く男達
(62)　高田派川作　尾崎雪磨畫

小兵衛怒る

金五郎はたきぬの頼みをいなむ筈はない
「アッハ……何かと思つたら源兵車の小兵衛との出入りの話しですかそんなことなら決して心配しなさるなたとへ相手が何千何百あろうとも及ばすながらこの金五郎がキット引き受け藤兵衛親分に引けをとらす樣なことはしねえ」
金五郎は小衛の腹の黑い事は兼ねて聞いてゐる、こゝ機會に於て一番こらしてやらねばならぬと決心をしたのである
「そうでございませうか、南部浪人が四人とか助勢をいたす樣子と聞き及んで居ります」
「そんなやつがゐなけりやア、わつちが行くまでもねえ、相手は小兵衛とその浪人、必ず心配をしなさんな」
「それを承り安堵いたしました、どうかくれぐれもよろしく御願ひ申します」
たきぬはなかば安心、なかば心配のまゝに自分の部屋に引き取つた、心配の間に二日はたち、いよ〳〵今日は小兵衛が返事を聞きに來る日となつた
「御免ねえ、鶴見から小兵衛が一昨日の返事を聞きに來たと傳ねてくんねえ」
小兵衛は約束の日の午の刻に子分の勘藏に才吉、傳太その後から南部浪人の島田左京、石上市之進、相澤兵太、關谷與一郎をつれて藤兵衛の宅へ來たのである
「親分々々、けんくわだ〳〵」
取次に出た藤兵衛の子分は相手の形勢を見てか、こうさけんだ」
「どうしたのだ誰がけんくわを買りに來たのだ」
藤兵衛は落ちついたもの
「今やつて來た、鶴見の小兵衛が浪人をつれてけんくわにきたと傳ねてくれつて」
「この野郎、いつも〳〵手前の耳はどこに着いてゐるのだ、たれアもうくるだろう待つてゐたのだ、鶴見から小兵衛が一昨日の返事を聞に來たといつたのだろう
「へエッ」
「へエちやアねへ、本當に手前の樣なやつがよう右の手へはしを持つて飯を食ひやがる」
「ナーニ、親分わつちは、左きゝでございますよ」
「そんなことはどうでもいゝ鶴見の人にこつちへた通りなせねと、さう、ひねね」
子分は叱りとばされて表へ來た
「へエ、鶴見の親分、どうぞこつちへた通りなせゑと」
「それぢや通してもらはう、サア皆の者、先生方も遠慮は入ねえ、おはいりなせゑ」
小兵衛は子分と四人の浪人共にズッと奥へ通つた、
「オ、小兵衛どん、さつきから待つてゐたのだ」
「さうだつたか、午の刻と約束したからその刻限に來たのだ」
小兵衛の言葉には、どことなく劍があつた
「それぢや小兵衛どん、一昨日の返事をしよう、既に一昨日も言つた通り己は最初からいやなのだ、しかし娘の心次第とおきめに聞いて見れば、おまへを亭主に持つのは死んでもいやだと返事もこれだけだ、昔は己れもこんな色氣のない返事をするつもりちやねが幸ひ、先生たちも出でなさるから隠した處がいづれ知れることとゝ歯に絹着せず言つて退けたのだ、どうか惡く思はねねでゐてくんねえ」
「オイ藤兵衛さん、イヤサ藤兵衛先生方が來て居るのに歯に絹きせず返事するとは何事だツ、他人の居ない時こそ、それでもいゝが他人の居る前でよくも己に恥をかゝしやがる、手前何か己に意恨をもつてゐるんだなッ」
小兵衛は銀角つばの一刀を片手にとり滿面に朱を注ぎ今にも切つてかゝらん氣勢であつた

ナフトール着尺
モスリン着尺
模樣名仙
平　龜田屋　電五七

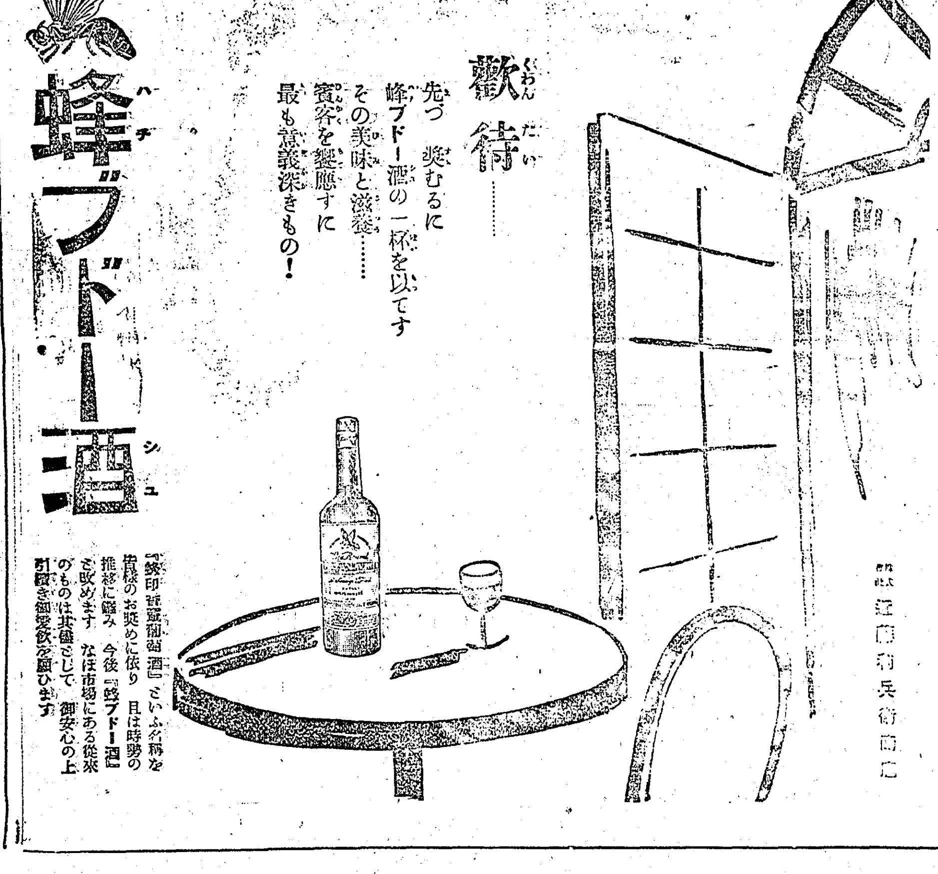
平町田町通り
磐城病院
電話一一四番

金曜日　十三日ヨリ
又復大映畫提供
故尾上松之助主演……秘寶映畫
最終解決篇　燃ゆる渦巻　全六卷
闇の陷穴…清之助の生死は？時世の渦卷は果して如何なる劍歴の裁き、又解決を見るか？
紅戀劍史　槍は錆びても　全六卷
谷崎十郎主演、澤村春子、川上彌生助演
纒綿たる情緒…戀と口說の色模樣…胸にしみ入る加茂の流れ…戀壯旋風的大殺陣の幕
東京・日日新聞連載　原作三上於菟吉氏
巨篇　炎の空　全十一卷
他社の模倣的作品を一蹴せる名篇…大松竹が自重と責任を以つて完成せる本映畫こそ眞の炎の空である
主演　河部五郎　中山介次郎
劍史　叛旗　全八卷
地上の惡は闇に生き、光り闇を追ふ、闇を好む者に盗心あり、光りを求めるものは幸ひなりとか
今週映畫長尺に付六時開演
日活松竹　高級常設　平館　電四六六

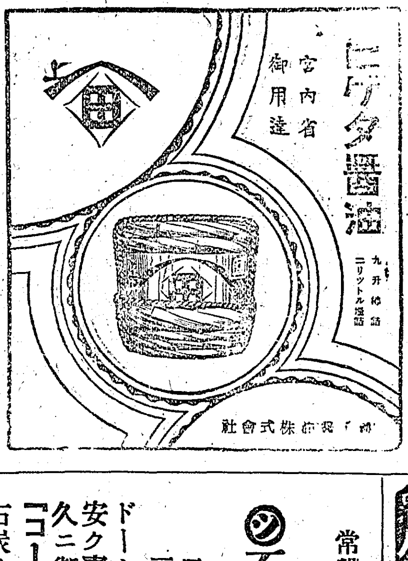
勿來町　大黑屋の發展
天下の勝勿來の關を背景として山紫水明の地に醸成されたる大黑屋酒造店銘酒「醉ノ郷」は芳醇無比として年と共に好評を重ねつゝあるが、今回當店にては更に一般愛用者各位へ謝恩の爲め吟醸「都々逸」の披露を兼ね、當地平館向にも支店を設置して左記の通り謝恩大賣出しを開始する由
四月十四日より十八日迄五日間
銘酒醉の郷　一升壹圓五十錢ヲ壹圓貳拾錢
同　都々逸　一升壹圓ノモノヲ八拾錢
尚賣出期間後も五合現金買上毎に謝恩劵（二枚ニテ酒一合ト交換）贈呈
大黑屋支店　電話三〇六番

（品質本位）
最新式室内カーテン
カフェーエプロン、コック服
理髪用白着、廣告用旗、造花
十字屋　小西元次郎
石城郡平長橋町三〇

櫻は公園!!　吳服は三井
春衣新柄特製品　宣傳賣出し
お花見足袋　別染一本　金八錢
お花見手拭　黑朱子　金三十錢
白キヤラコ　金二十錢
新館階上階下にあらゆる春の新柄さ京人形が陳列されて居ります　から何卒御覧下さい
平町　三井吳服店　電話一三八　七百五十一番



特約店　平町田町　廣瀬支店　電話五四番



夜間診療
胃腸　内科　十二指腸虫病　專門　内科部
梅毒　淋病　婦人病　皮膚病　專門　外科部
平南町　松村病院　電話一〇七

常磐第一ノ大炭礦タル磐城炭礦ノ石炭
◎石炭と「コークス」の特長
一、目方ノ正確
二、品質ノ優良
三、配達ノ迅速
ドーシテアンナ良イ品ヲ、ソンナニ安ク賣レルカト驚カレ一度使ヘバ永久ニ御使ヒ下サルノガ當店石炭ト「コークス」ノ特長デス
石炭は正十貫目一俵金六十五錢也
平驛前　阿部石炭商店　電話二三七番

平町紺屋町　吉田眼科醫院

營業種目
内地材　材木各種、羽柄材各種　建築諸材請負　礦山用坑木其他諸材請負
外材部　米松、米杉、大角製材調達請負　其他
佐藤材木店　常磐線平町新川町　電話三三五番

咲いた松ケ岡の櫻
新川畔も一分の微笑み
きのう西洋料理組合花見の皮切り
賑ふ平町の花見

平町松ケ岡公園の櫻花は東北一の吹聽が眞に地元の誇張でなく花期に於て常磐線の車窓に映ずる滿山花に埋づまる艶麗から新川土手十餘町に霞棚引く見事さは疾走に過ぐる寸觀の旅客をも恍惚とさせてゐるがチラホラ笑ひ初めた數日來漸く遊山の人を呼んで園內は日一日と賑はつて來た東部電が殆ど奉仕的に花咲く樹間を飾る千五百の廣告燈も明晩邊りから點火される事となり夜の眺めがまた一際の美を見せ十二日午後三時町內西洋料理業組合が逸早い蒼發に持合せのウエートレス卅餘名の總動員に對數の藝妓をまじへ約五百名の觀櫻會を皮切りにぽつ〳〵天下晴てのサシザめきを增してゐるが來る十五日の日曜は丁度花も見頃なので雨さへ降らねば賑はひは大したものだらう

チブス患者廿七名
遂ひに收容難
猶ほ增加の見込みで
平町當局の狼狽

平町新田町林家抱藝妓小六事高橋スエ(三四)が去月十七日腸チブスと決定隔離され以來連日町內各所・腸チブス患者が多數發生し天然痘騷ぎに引きつゞき町民を極度の不安に陷入れてゐた折柄十一日突如として

平町田中　町加藤新氏が腸チブスと決定したのを皮切りに同日中に六名の新患者を出し更に昨十二日に至り平町古鍛治町中島勘次郎(三四)長橋町佐藤恕(六五)平五町目鵜沼寅五郎(六三)の三名は何れも眞性腸チブスと決定今十三日は午前中平町才槌小路永野柳藏氏三男磐中三年信夫(一六)二女平第二小學校六年生マサ子(一三)の兩名も眞症チブス患者と決定更らに續々と新患者が出るものと豫想され平町當局の狼狽は極度に達してゐる

平署と共力し
徹底的消毒
善後策に腐心

別項腸チブス患者の續出に極度の狼狽を見せてゐる平町當局では平署と共力必死となつて豫防に努めてゐるが本日まで既に二十七名を數へ中一人死亡したので現在二十六名が全部隔離病舍に收容されてゐるが隔離病舍は議員の折柄一昨日來急激な患者の發生に全く收容の豫地なく辛じて事務室・消毒室等に至るまで患者を收容してゐたが萬一今後患者の發生を見た場合には患者の隔離收容が出來ないので町當局では病舍割振りの善後策に腐心してゐる

急施町會で
隔離舍增築
平町大騷ぎ

腸チブス患者の大激增・伴ひ遂に患者の隔離收容難を來たすに至つたので平町當局では今十三日午前十時急施町會を召集して工費一千圓を投じて約三十坪の急造病舍建設の件を協議可決したが更らに全町に亘り一大消毒を執行全力を擧げて腸チブスの豫防に努める事となつたが町會に於いて決した急造病舍は半永久的な設備を施し今後の收容に當てるので工事は急速を要するので明十四日から起工する事となつた

擡頭して來た
平の撞球熱
スズラン球場開く

高尙な屋內スポーツとして一般から愛好される撞球趣味は近年非常な勢で擡頭して來た折柄平町南町織田榮三郎氏は此の程平町十五町目二十三夜尊傍に新臺二臺を据ゑてスズラン撞球場を開いたが從來僅に一ケ所のみであつた駒場氏のマルトビリヤードの設置と共に一般から非常な喜びを受けてゐるが織田氏は撞球趣味の普及を目的としてゐる爲め利益を度外視して回數券を發行し一ゲーム五錢乃至十錢の安い料金で多數來客を歡迎してゐるので一部に限られてゐた撞球趣味は著しい勢で發展するものと豫想されてゐる

町役場の新築と
吏員待遇改善
老朽は止むなき陶汰
多忙な平町當局

平町役場は町勢の發展につれ吏員の增加事務の複雜等によつて漸く狹隘を告げ今秋御大典記念事業として多年の懸案であつた廳舍の改築をなす計劃で目下町調査會で調査中であるが之れに從つて今後吏員の增員も自然行はれるものと見られてゐるが現在四十餘名の吏員のうちには老朽で能率增進どころか却て減殺される者もあるのでこの際刷新をなす必要があり一部町會議員もその要を當局に迫つてゐるが現在同町の吏員は書記十四名でこの平均給五十六圓の豫算書記補は九名平均給四十九圓であるが書記に於て平均給以上のものは僅四名であり他の書記はいづれも平均五十圓位の待遇を受け書記補に至つては平均給に達してゐるものは一名もない有樣で羊頭を掲げて狗肉を賣るの豫算案に對して吏員の不平は滿々としてゐる

植田驛發着
前年より增加

植田驛去年中の成績を擧ぐれば左の如くで前年より增加を示してゐる

(乘車)一九、一四四二人一日平均五二三人(降車)一八、七八三三人、一日平均五一三三人(收入)六萬四千〇六〇圓(一日平均)百七十五圓(貨物發送噸數)四萬五千二百七十噸(平均一日)百二十四噸(賃金)拾一萬〇五百三十七圓(一日平均)三百〇二圓(到着)六千四百九十一噸(一日平均)十八噸以上

四倉運送の
總會揉める
重役改選で

石城郡四倉町四倉運送株式會社の重役新妻金次郎氏が辭任したので此程重役改選の株主總會を開いて選擧をなした處町會議員小湊平次郎、同宮內幸平の兩氏が重役就任の希望をいだき猛烈な運動を始め重役會は宮內氏を推薦したが一般投票を行つた結果は四百票の差で小湊氏が當選したので憤慨した宮內氏は十一日同會社に宛て株主總會の決議を無效なものであるから再び臨時總會を開くべしと抗議を申し込んで來たが裏面に何か種々複雜な事情か潛んでゐるらしく相當紛爭はあるものと言はれてゐる

山崎氏最高點

福島民友新聞社の主催する縣青年議會の議員投票を募るや本郡南の新人實力家山崎登氏は常に第三區の上位を往來してゐたが二十一萬二千八百三十六票の最高點で當選した

女房の家出
亭主より搜査願

埼玉縣北足立郡蕨町吉田長助內縁の妻太田きよは去月中突然無斷家出行方を晦ましたので夫長助は八方在所を搜査してゐたがきよは石城郡內郷村生れ太田政吉(三八)と情を通じてゐた形跡があり政吉は去る二月中內郷村の實家に引上げた事實がある處からきよは政吉の後を追つて當地方に來てゐるではないかと此の程長助から行方搜査方を平署に願出た

片輪者を裝つて
荒し廻る老賊
無い筈の腕がニヨコ〳〵
平署で一切自白

平町に數日前から佐渡の金山で片手を怪我して働けぬから惠んで呉れと金錢を强要して步く乞食があるので平署では十一日午後同人を本署に引致し身体檢査をしたところ驚くべし片手無しの不具者とは眞つ赤な嘘で頑健な腕を細紐で胴体にくゝりつけて不具者を裝つて居たこと判明し取調べたところ今度は精神病を裝ひ[illegible]を吐かないので留置場に叩き込んだところ泣くわめくの狂態を演じ果ては脫糞して差入口から係官に叩きつけまたは壁に塗りつけ廊下に向つて放尿したりするのでさすがの刑事連も持てあましなだめたりすかしたりしたがますます狂態を演ずるのでそのままにして置いたところさすがに乞食も餅易しと見ねて十二日は從順になつたので取調をなしたが此奴は新潟縣北蒲原郡中條村生れ當時住所不定無職遠藤清作(六五)といひ千葉、茨城、埼玉等各縣を徘徊したことだけは自白したが他は一切口を緘じて語らず指紋をとつて照會中であるが前科十數犯を有する稀代の曲者らしいと

能樂狂言概要
今夜平劇場で

平觀世會主催の能樂狂言は屢報の如く和泉流多々良外茂三郎師一門により今十三日午後四時より平劇場で開催する筈であるが狂言番組の概要左の如し

□船渡聟　矢橋の浦に大聟の船頭が居りました。京からその聟が初のむこ入酒樽を携へて大津の松本に參り其所から矢橋へ渡る船を待ひました。船頭はフトその日は比良颪が寒いので客の酒樽に眼をつけまして樽をにぎる手も凍えそうで船渡は酒を强請しましたが客は承知しません。すると船頭は櫓を捨てゝ船の中にね込みました。客は詮方なく樽の口を開けて餘程輕くさせられました。すると船は矢橋につき。聟は舅の家を訪ねますと姑が一人留守居してゐます。先づ初對面の挨拶をかはしてゐます所へ舅が戾り、聟が來たことを聞きそつと覗きますと、先刻の客でしたから驚いてその由を妻に話します。妻はそれでは斯うしてと無理にその髭を剃り落して對面させましたが、とゝ聟にあらはされ赤面するを、聟はどうせ親父に上げる酒ですと共に扇を拔いて舞ひます。

□名取川　或修業僧が都へ上つて授戒しての歸るさに寺の手習子より己が名を希代坊又の名を不詳坊と附けて貰ひ、忘れぬ樣にと衣の袖に書き付けて喜んで歸國する事になつた。途中名取川へ着き、渡り瀨を越す時誤つてすべりこけ遂に衣を流して了へ其名すら忘れて了つた。所へ土地の人が通り掛り色々問答の後名を掛けば名取の何某と云ふにさては恐僧　名を取つた、返せ〳〵と云ふに、何某は驚いて名前を返せとは希代な人もあるものぢやと云ふとそれが身共の名ぢや、ついでは人の名を返せと云へば何某は固り果てさて〳〵不詳な人に行き逢ふたと云ふと、その不詳坊とは身共の又の名ぢやと悅んで歸國すると云ふ、滑稽の中に舞あり謠ありて面白き希代な狂言です。

□素謠(觀世流)熊野　平宗盛の妾たりし熊野の娘其母の病重きを聞き、歸鄕を乞ひたれど許されざりしが、東山の花見の席に、一首の秀歌を詠じ、これによりて暇許されたりといふ曲　シテ熊野、ツレ朝顏、ワキ平宗盛、ワキヅレ太刀持

□梟山伏　山から歸つて來た弟が急に物の怪がついて樣子が變です。兄は驚いて山伏の許へ祈禱を賴みに參ります。山伏は兄に案內されて參りますと、成程目の色が變つてます、そしてホウ〳〵と鳥の啼聲をしますので、之はキット梟かついたのだらうと、鳥の印を結び祈りますが、執念深い梟は中々離れやうとしません。尙も一心に祈をつゞけますと、今度は兄の力にも梟がのりうつつてホウ〳〵と啼きます。山伏はスッカリあわてゝ夢中になり祈り疲れてトウ〳〵倒れて了へますと、兄弟はホウ〳〵山伏を取卷いて鳴いて居りますうち、山伏が氣がつき起上りますと、これもまた梟が乘りうつつてトウ〳〵三人でホウ〳〵と鳴きかはして引込みます。

□三人片輪　有德な物好人が片輪を召しかゝひようと高札を立てました所、三人のいたずら者がこれをきゝ、盲に啞に壁に化けて應募採用されました。或日主人他行するに付三人の片輪に物藏と、錢藏と、酒藏を夫々托して出掛けました主人の不在中三人は正体を現し互に顏を見合せると知り合のいたずら同志でしたから啞の預る酒藏を開けていゝ氣持になつて歌ひ舞ひ酒盛をして居ります所へ、主人が歸つて居りました。サア大變と三人は面食ひ盲に化けたのが壁になり、壁が啞に啞が盲になつてトウ〳〵看破られてにげてゆくといふ抱腹絕倒のものです。

素謠(喜多流)蟬丸　延喜の皇子蟬丸、前業により生れ乍ら盲目なりしかば、父帝後世を濟はんため逢坂山に捨て給ふこゝに同じく前業により、髮逆樣に生ひ上り終に狂氣して內裏を浮かれ出でたる逆髮といふ姉君あり、適々逢坂山にて蟬丸に逢ひ、共に業報を語り悲み、再び別るゝといふ曲。シテ逆髮、ツレ蟬丸、ワキ臣下。

幼い兄の子守で
弟澤庵と心中
母が洗濯の留守中
之れも親の不注意

湯本町字日渡渡邊豐太郎孫利秋(二)は數日前から風邪で氣分を惡るくしてゐたが昨十二日午前九時頃母ハナは利秋の兄利吉(四)に子守を言ひ付けて裏口で洗濯し程經て座敷に立もどつた處利秋が顏色蒼白となつて死亡してゐた事を發見驚ろいて附近の醫師を招き應急加療したが遂に蘇生するに至らなかつた死亡の原因・就いては平署渡邊部長が檢視の結果守りをしてゐた兄利吉(四)が利秋が急に泣き出したのでアヤそうと持つてゐた澤庵漬一切りを弟の口に詰込んだ爲め遂に窒息死亡するに至つたもので屍体は實父豐次に引渡したが子を持つ親は注意すべきである

三井の春衣
京人形と新柄陳列

平町三井呉服店では春衣新柄特製品宣傳大賣出しを開始した花見手拭、花見足袋の大勉强賣出しの外新館階上階下にはあらゆる春の新柄と京人形を陳列し大いに顧客の眼を喜ばせてゐるが良品廉價の同店は常に店頭市をなすの盛況である

關谷出張販賣
十五日より平劇場

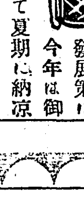
東京日本橋關谷商店の實用雜貨見切反物出張大賣出しは十五、十六の二日間平町平劇場に於て行ふ筈であるがその一例は羽二重女帶地二圓七十錢、最新流行洋傘三圓と云ふ特價で御召、高貴織より木綿一般呉服雜貨の大量提供をなす筈

天然痘に非ず

石城郡江名町藤國次(二一)同郡平窪村鈴木春吉(五二)同郡好間村岡田兵吉(三三)の三名が天然痘の疑ひありとの屆け出でに弓田衛生技師檢診の結果天然痘でない事判明した

平町十三日會

平町十三日會では今十三日午後七時から平銀行樓上で例會を開催平商業學校長吉田利吉氏の「企業組織に對する一考察」と題する講演ある筈



◈平町の發展策に今年は御大典を奉祝して夏期に納涼博覽會を公園あたりでやらうと計畫してる人がある◈何でもステキに大きな瀧を落して涼風を漲らせ、氷で中迄ヒヤ〳〵させたり、風こしらへた北極館では腹の洞では冷へきつた風で女の腰卷まで吹きまくろうといふのは、チト穩かでないやうだ◈呼び物として海の魚や淡水魚の水族館や、季節の螢を幾萬となく飛ばして自由に捕せるなどは面白そうだ、空中を廻轉する飛行機型の乘物はキット小供等に喜ばれるだらう◈一つ花柳界でも奮發してイクラ降つてもつもらない雪でも見せることだね、かういふ催しは汽車の割引でも願つてウント人を寄せれば平町全體の賑ひになることだナア二金など心配しなくても日本銀行がアラー

實用雜貨見切反物蒐大賣出し

期日　四月十五日十六日の二日間　晝夜營業
場所　於平劇場

●見切呉服の一例
▲實用木綿反物の特賣
▲羽二重女帶地　二、七〇
▲新柄紬毛セル　五、〇〇
▲縮緬兵兒帶　一、六〇
▲本場名仙　四、五〇
●實用雜貨の一例
▲最新流行洋傘　三、〇〇
▲上等蛇の目傘　一、〇〇
▲流行ショールの特別提供
▲毛布、敷布、蚊帳、セータ、の大見切
▲メリヤス、靴下、フェルト草履の特賣
其の他御召、高貴織、銘仙、結城紬、小紋錦紗、半ヱリ、メリンス、丸帶ヱプロン、タオル製品、小供服、割烹着等一般呉服、木綿、雜貨類の大量提供をなす凡て現在市價の半値段にて
◎特別提供
百人限り一名一品
▲上等英ネル　九十錢
▲上等晒木綿　五十錢
▲ショール　七十錢
其他染絣、メリンス等絕對二度とない破格値段

東京・日本橋
關谷商店

祝植田支局開設

植田藝妓屋組合

植田町
片岡醫院
電話一〇七番